

「聖霊と私達は決めました」

主の働きにおける、指導者間での意志決定モデル

2007年12月26日 アシェル・イントレーター

キリストの体の中での、ユダヤ人信者と異邦人信者の立場の問題について、初期のイエシュア(イエス)の、弟子達の共同体は危機に直面しました。この問題に対する解決策は、神の御国にとって大変な進歩をもたらしました。

主の働きの指導者達の中で、問題の解決方法をどのように決めていくか、一つのモデルを示しました。正しい決定に到達するまでの過程は、3つの要素によって成り立っています。

1. グループ討議—使徒 15:7—「激しい論争があつて後」 討議は長く時には熱を帯びたものとなりました。それぞれ主だった指導者達は、自分の意見を述べる機会がありました。これは時間のかかる、不快な過程であります。しかし、もし私達が神の御心を理解したいと思うならば、他者の見解を聞こうと思わなければなりません。熱を帯びた討議を恐れてはいけません。

2. 指導者の決断—使徒 15:19—グループの指導者であつた使徒ヤコブは宣言しました、「そこで、私の判断では。」彼の声明は、最終決定を下すユダヤ教法廷で、「ポセック」として務める最高判事としての役割を反映しています。すべての公開討議の結果にもかかわらず、最終的には、グループには一人の指導者が必要であるということを、皆が理解したのです。

3. 聖霊による判断—使徒 15:28—「聖霊と私達は(中略)決めました。」彼らの中に、個人として存在した聖霊は、ご自身の意見や意志を持って、討論に十分参加していることが見て取れます。弟子達は祈りや断食を通して(使徒 13:2)、聖霊の導きに聞き従う努力をしていました。これら3つの要素は必要なものです。

もし指導者グループの中で討論がなく、一人の指導者が(彼がどんなにカリスマ的または権威的であっても)、彼が神から聞いたことに基づいて決定するならば、その集団はカルトや支配的な形式に陥ります。そこには説明責任はなく、新しい指導者候補は失望して去って行きます。価値のある異なる考え方は失われます。たとえ指導者が、グループをどちらの方向へ進路を取るべきか確信していたとしても、もし決定を行う過程において副指導者達を関わらせなかった場合、副指導者達の感情を害し、グループの一致は崩壊します。

その反面、もし権限が認められる指導者が明らかに存在しない場合、グループは「分析麻痺」に陥ります。明確な決断はなく、その結果、分裂、反抗、不満、混乱がもたらされます。権威が尊重されないために、また、権威を委任することも不可能となり、数的成長は止まります。ある人々はグループを、明白な指導者を立てないで運営することが、より「霊的」あるいは「愛がある」と考えますが、その考え方は聖書の教えに反します。

もし、聖霊に従わない場合、グループは人間至上主義と宗教的権力闘争に陥ります。ここで「投票」が行われていないことに注意して下さい。これは委員会ではなく、聖徒の集団が神のご意志を求めているのです。私達の目標は「祈って話をし、さらに祈って話をする」ことで、心に一致が生まれるまでそれを行い、聖霊に従うの

です。すべての人間の見解は不完全です。「自分の意志」を求めるのではなく、「主のみこころ」(マタイ 26:39)を求めます。私達は皆「間違っ」ているのです。私達は「第三者」からの助けが必要なのです。もし私達がへりくだって祈るならば、聖霊のみ声を聞くことが実際可能になるのです。

新約聖書において、「君主制的」(一人の最高指導者を伴う階層的な権威)または「友愛的」(垂直的な権威を持たない同等の地位の集団)であるのか、指導者の組織構造について議論があります。権威は天より「下方向」に下ってきて、イエシュアを通して委任されるので、垂直的な権威は明らかにあるべきです。その一方で、すべての信者は聖霊を受け権利があるので、主にある兄弟姉妹は互いの意見を聞き合うべきなのです。それゆえ、答えは明らかに二つの位置づけの混成です。(” Covenant Relationships” 「契約的關係」アシェル・イントレーター著(英語のみ)p212 「指導的地位と相対多数」を参照のこと)

権威について、私達は二つの位置の内、権威の「中」にいるのか、あるいは権威の「下」にいるのか、どちらかにいることとなります。私達は皆、上達、下達両方の位置について、どう取り扱うべきか知るべきです。百人隊長が言ったように「私も権威の下にある者ですが、私の下にも兵士達がいます」(ルカ 7:8)私達は皆、ある人の権威の元に従う方法と、自分の権威の元にある人をどう取り扱うかを知るべきなのです。

私達が権威の元にある時、なるべく「君主制的」モデルに従うべきで、指導者に対して「疑わしきは罰せず」を与え、彼の権威を支持し、従順を実施すべきです。私達が指導者の立場にいるならば、なるべく「友愛的」なモデルに従うべきで、私達の権威に従う人々に聞き、彼らを兄弟姉妹として扱い、彼らの意見を尊重すべきです。

人間性は、その反対を行いがちです。どのグループの権威の元にも、私達はより「友愛的な」姿勢へと声高に要求します。私達が指導者の立場にいる時、自分の回りにいる人に対して自分の権威を尊重し、従うよう求めます。ほとんどの人が両方の立場で間違いを犯します。もし私達はその肉体的傾向と闘うならば、より神寄りのバランスへと近づくことができるでしょう。

イエシュアの指導者に対する「黄金の法則」は単純に「しもべとなること」です。「人の先に立ちたいと思う者は、あなたがたのしもべになりなさい。」(マタイ 20:27、23:11)権威に従う時、そして権威を行使する場合、どちらの立場にあっても、私達はしもべの態度を持つべきなのです。